

San-iku 通信

社会福祉法人賛育会の広報誌「さんいくつうしん」

TAKE FREE

東海清風園
地域活動
えびす屋



REPORT

Vol. **50**
2026 SUMMER

特集 世代をつなぐ地域の居場所「えびす屋」

- 賛育会2025年度事業報告
- 「人を大切にする介護」を、未来へつなぐために Vol.3
介護の中心には常に“人”がいるという原点を大切にICTが支える「人を大切にする介護」



世代をつなぐ地域の居場所「えびす屋」

15年目を迎え、施設内に移動した「えびす屋」は新たな交流の場へ生まれ変わりました。

東海清風園（静岡県 御前崎市）

東海清風園では2026年4月より、地域共生社会の実現に向けた取り組みとして、特別養護老人ホームの玄関ロビーで駄菓子屋「えびす屋」を開催しています。

この活動は、地域子どもたち、高齢者、そして施設をご利用される皆さまで、誰もが気軽に集い交流できる地域のつながりを大切にしたい居場所づくりを目的としています。

■地域に支えられて15年目、新たなステージへ

東海清風園は、2011年に地域活動計画を立ち上げました。その一環として、地域住民に長年親しまれていた駄菓子屋「恵美寿屋」の空き店舗をお借りし、「えびす屋」の活動がスタートしました。

近隣の幼稚園児による現金を使ったお買い物体験や、デイサービスセンターのご利用者の社会参加の場に加え、ご利用者が指先の機能向上を兼ねて商品への値付け作業

を行うなど、多世代交流の場として親しまれてきました。

そして活動15年目を迎えた今年度、新たな取り組みとして開催場所を東海清風園の玄関ロビーへ移しました。より身近な場所になったことで、ご利用者も気軽に参加できるようになり、地域の皆さまとご利用者との交流がさらに深まっています。

■笑顔あふれる交流の場

開催日には、地域子どもたちや保護者の方々、地域の皆さまや、ご利用者とご家族など、多くの方が足を運んでくださいます。

懐かしい駄菓子を囲みながら自然と会話が弾みます。「懐かしい。昔よく食べたお菓子だね」「どれがおすすめかな?」といった声が聞かれ、ロビーは笑顔と活気に包まれます。駄菓子を通じて世代を超えた交流が生まれ、地域と施設をつなぐ温かな時間となっています。



東海清風園ロビーへ
移転した、現在の
えびす屋



駄菓子を通じて、
温かな時間が
流れる店内



駄菓子屋「恵美寿屋」
の空き店舗で開催
していた頃





えびす屋は、子どもも、
大人も、施設のご利用者も、
自然と笑顔があふれる場所

■「えびす屋」が育む、子どもたちとの温かい絆

幼稚園の頃から通っていた子どもたちがすっかり大きくなり、大切な人と一緒に来店する姿を見られるようになりました。恥ずかしそうに担当職員へ紹介してくれる姿はとても微笑ましく、小さな頃から見守ってきた私たちにとって、何より嬉しい出来事でした。

また、昨年度にえびす屋へお買い物体験で来てくれた24名の幼稚園児の皆さん。体験の後、幼稚園のクラスで「えびす屋さんごっこ」が流行したそうで、子どもたちにとって楽しく思い出に残る体験となったことを、とても嬉しく感じました。こうした地域に根付いた活動が、子どもたちの遊びや学びにつながっていることを、改めて実感できた温かいエピソードでした。

■つながりの輪を広げ、そして未来へ

「えびす屋」は、人とひと、そして地域をつなぐ交流の場とし

て、子どもから高齢者まで誰もが気軽に立ち寄り、安心して過ごせる「地域の居場所」であり続けたいと考えています。これからも地域の皆さまとともに歩みながら、「えびす屋」を通したつながりを大切に、お互いに支え合える交流の輪を広げ、笑顔があふれる地域づくりに取り組んでいきます。

えびす屋（東海清風園）

開催日時：月曜日・金曜日 14:00～16:00

開催場所：東海清風園 玄関ロビー

お問い合わせ：0537-86-3286（栗山まで）

賛育会の様々な地域活動をご紹介します。

賛育会の地域活動

<https://www.san-ikukai.or.jp/csr/>



賛育会2025年度事業報告

常務理事 中村 基信

中期3ヵ年計画の2年目として、賛育会憲章の精神を大切にしながら、医療・福祉・保育の各分野で、地域に仕える働きを着実に進めた一年でした。多くの支えとともに事業を推進できたことに感謝申し上げます。

運営体制の整備

評議員・理事・監事を改選し、新たな体制のもとでガバナンスを強化した一年でした。施設の老朽化に伴う修繕や物価高騰への対応を進めつつ、内部統制や予算管理を徹底して法令順守と経営の安定化に努めました。

医療・介護・保育の質向上

医療事業は、安全対策や感染対策、在宅医療の強化に取り組みました。賛育会病院では、高次救急病院や地域の医療機関との連携を深めるとともに、小児発達支援専門クリニックの開設準備も進めました。

介護事業は、持ち上げない介護や看取りケアの実践、ICT活用による業務改善を進め、事故防止や権利擁護の取り組みを強化しました。

保育事業は、食育や礼拝、季節行事、賛育会病院助産師による「いのちの授業」などを通して、いのちと仲間を大切にする心を育む保育を実践しました。

赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト

「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」として2025年3月31日から賛育会病院で内密出産とベビーバスケットを開始し、東京都、墨田区、医療機関、福祉施設、キリスト教団体などと相談、連携しながら、母子に寄り添う支援を実施しました。また、プロジェクトへの理解を深めるための発信も継続しています。

職員の確保と育成

採用ホームページ、就職フェア、学校訪問、インターンシップなどを活用して採用活動を進めました。新卒採用は厳しい状況でしたが、中途採用や派遣職員を確保することができました。資格取得支援や階層別研修、職種別研修、SEAP(調査研究・実践事例発表会)などを通して、職員の成長とサービスの質向上を図りました。外国籍職員への支援やダイ

バーシティ研修も進め、多様な人材が働きやすい環境づくりに取り組みました。

新病院・新施設構想と地域連携

2025年3月から旧立花中学校跡地で、医療と福祉が連携した地域包括ケアの実現に向けた新たな拠点づくりを開始するとともに、地域の声を取り入れながら、持続可能な法人運営を目指して病院や施設の将来構想の検討も開始しました。

また、地域のお祭り、防災訓練、医療・福祉講座、相談活動などを通じて、地域住民や学校、医療機関、福祉施設との協働を広げました。

支援の輪の拡大

ホームページや機関誌、チャリティーコンサートなどを通じて、賛育会の医療・福祉・保育、地域活動に関する情報発信を強化し、ボランティアや支援の輪を広げるとともに、後援会や企業、地域の皆さまからのご寄付によるご支援をいただくことができました。

【事業活動計算書】

(単位:千円) *千円未満四捨五入

勘 定 科 目		2025年度	前年度	差額
サービス活動増減の部	収益(1)	14,540,329	14,040,697	499,632
	費用(2)	13,972,175	13,788,554	183,621
	差額(3)=(1)-(2)	568,153	252,143	316,010
サービス活動外増減の部	収益(4)	78,304	80,533	▲ 2,229
	費用(5)	108,403	79,206	29,197
	差額(6)=(4)-(5)	▲ 30,099	1,326	▲ 31,425
経常増減差額(7)=(3)+(6)		538,054	253,469	284,585
特別増減の部	収益(8)	320,831	270,392	50,439
	費用(9)	338,901	265,156	73,745
	差額(10)=(8)-(9)	▲ 18,070	5,236	▲ 23,306
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		519,985	258,705	261,280

「人を大切にする介護」を、未来へつなぐために

介護の中心には常に“人”がいるという原点を大切に ICTが支える「人を大切にする介護」

Vol.03



賛育会が大切にし続けてきた「人を大切にする介護」。この想いをかたちにするため、2025年度に「生産性向上推進プロジェクト」が始動しました。ICT機器を活用して業務を見直し、その結果として生まれた時間をご利用者とのふれあいや丁寧なケアに充てることで、介護に関わるすべての人へ「豊かな心」を広げていく。そんな未来を目指して準備を進めています。

今号では、検証施設としてこの取り組みを進める「東京清風園」と「第二清風園」の様子をご紹介します。

■東京清風園

「ICTで広がる安心と効率」。 現場が変わる新しいケアのかたち



東京清風園では、タブレットやスマートフォンでの記録導入により、ケア後の記録時間が効率化され、ご利用者と向き合う時間を確保しやすくなりました。また、見守りカメラやセンサーの導入で、夜勤中も居室の様子をリアルタイムに確認できます。必要なタイミングで訪室できるため、ご利用者の睡眠や生活リズムを妨げにくい環境づくりにつながっています。万が一の転倒時も映像で原因を正確に把握し、再発防止につなげています。こうした変化により、職員からは「夜勤の肉体的・精神的負担が軽減された」という声も多く聞かれます。

一方で、ICTを活用しながらも、一人ひとりの状態や思いを丁寧に記録・共有していくことや、得られたデータをケアにつなげる職員のアセスメント力向上、業務効率化で生まれた時間の活かし方が今後の課題です。ICT導入は機器を入れるだけでなく、業務改善とセットで進めることで初めて生産性向上につながります。今後はご利用者が安心して暮らせる環境づくりにICTを活かし、東京清風園らしい質の高いケアへとつなげていきます。

清和 綾子(東京清風園)

■第二清風園

「つながる仕組み」で安心をかたちに

第二清風園では、職員がご利用者と向き合う時間をより確保できるよう、業務負担の軽減を目指し、2024年度よりICT導入委員会を設置。「業務効率化」「職員の負担軽減」「ケアの質向上」を柱に取り組みを進めています。『眠りSCAN』全130床の導入をはじめ、インカム・iPhone・iPad・ナースコール・介護記録システムを連携させ、状態把握から記録・情報共有までを円滑に行える環境を整備しました。

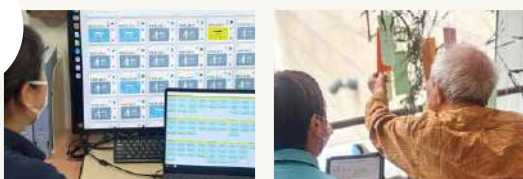
『眠りSCAN』では睡眠や覚醒、離床などを離れた場所から確認できるため、必要なタイミングでの訪室が可能に。ご利用者をお待たせする場面の減少にもつながっています。また、職員全員がインカムを装着したことで迅速な情報共有や応援要請ができるようになり、「業務をしながら連絡が取れて効率的に動ける」「情報共有が早く、安心して働ける」との声が寄せられています。

一方で、機器の活用方法の工夫や運用の定着、職員間での活用レベル向上が課題です。今年度からは「生産性向上委員会」として活動を継続し、ICTを効果的に活用しながら、安心で質の高い介護サービスの提供を目指しています。

宮野 文香(第二清風園)

両施設に共通するのは、「機器導入はゴールではなく、より良いケアを実現するための出発点」という姿勢です。ICTは、人に代わるものではなく、ご利用者一人ひとりと向き合う時間や安心を支えるための手段です。ここで得られた知見やノウハウを今後も法人全体で共有し、「人を大切にする介護」を未来へつないでいきます。

東京
清風園



第二
清風園



地域&賛育会：マイホーム新川（東京都中央区） 地域とともに在り続ける、高齢者施設として

「顔の見える関係」が、災害時の安心につながる ～マイホーム新川 地域防災への取り組み～

災害が起きたとき、施設だけの力でご利用者の安全を守り切ることはできません。だからこそ「マイホーム新川」では、普段から地域の方々と「顔の見える関係」を築くことをとても大切にしています。実際に、複数の職員が地域の消防団に加入し、防災訓練や見守り活動を通じて、消防署や自治会の皆さまと日頃から深く関わってきました。こうした継続的な関係づくりが、災害時にも円滑に協力し合える体制につながっています。

地域の福祉避難所として 支援を必要とする方々に寄り添う

当施設は、災害時に地域の高齢者や障害のある方など、一般の避難所での生活が難しい方が安心して過ごせる避難所としての役割を担っています。防災訓練を重ねるだけでなく、福祉避難所として受け入れ体制を整え、非常食や備蓄品も計画的に備えています。これらの取り組みを通じて、もしもの時も地域の誰もが安心して身を寄せられる「もう一つの居場所」であることを目指しています。



全職員の半数以上が 救命講習を修了

災害時に適切な対応ができるよう、当施設では職員の救命講習の受講に力を入れてきました。

地道な取り組みが実を結び、全職員の半数以上が講習を修了。その取り組みが評価され、東京消防庁から「救命講習受講優良証」を交付いただきました。

これからも日頃の訓練を大切にしながら、ご利用者の安全確保と地域の安心につながる「福祉避難所」としての役割を果たしていきます。



消防署より 感謝状をいただきました

「地域の安心に少しでも貢献したい」という想いで続けてきた、日頃の防火・防災活動や見守り、消防団への参加などの活動が評価され、東京消防庁京橋消防署から感謝状をいただきました。地域とともに歩んできた活動の成果として、心強い励みになっています。

これからも地域の一員として、ご利用者と地域の皆さまのいのちを守る、防災の取り組みを続けていきます。



地域の声 新川二丁目越二町会 町会長 松谷慶久様

新川は江戸時代、「江戸湊」と呼ばれ、なかでも新川の下り酒は旨いと評判の名物でした。埋め立てによって発展したこの街で、消防団は江戸町火消の伝統を今に継承しています。

マイホーム新川には、地域の高齢者施設として30年間、専門的な介護を提供いただき、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できる、地域を支える拠点としての役割を担っていただいています。職員の皆さんは、消防団活動や地域行事にも積極的に参加されており、顔が見える関係が築かれています。こうした日頃からのつながりが、災害時の安心につながると感じています。



賛育会後援会 総会報告

後援会総会を開催しました

2026年7月15日、賛育会後援会総会をハイブリッド形式で開催しました。後援会は、これまでの東大YMCAのメンバーに、賛育会の施設長などを歴任したOBを中心に地域で豊富な経験を積まれた方々で構成されており、法人の活動を支援するとともに、地域と賛育会をつなぐ架け橋として重要な役割を担っています。

総会では、2025年度の後援会活動や寄付実績の報告に加え、法人から事業・決算、「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」、新病院・新施設の整備状況などについて報告を受けました。また、委員の皆さまからは、地域で把握している福祉ニーズや人材確保、地域との連携などについて、それぞれの経験に基づく活発な意見が寄せられました。こうした率直な声は、法人が地域に根ざした事業を進めていくうえで貴重な財産となっています。

後援会では、これからも賛育会の理念に共感して下さる皆さまとともに、地域の声を法人へ届け、医療・介護・保育・子育て支援など、誰もが安心して暮らせる地域づくりを支えてまいります。今後とも、温かいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



SAN-IKUKAI INFORMATION

施設
通信

イベ
ント

地域のみなさまと笑顔でつながる イベントのご案内

賛育会では、地域の皆さまが気軽に参加できるイベントを通じて、交流の輪を広げています。子どもから大人まで楽しめる多彩なプログラムをご用意してお待ちしています。どなたでもご参加いただけます。笑顔あふれるひとときを一緒に過ごしましょう！

10/4

日

清風園 (東京都町田市金井7-17-13)

清風祭

11:00-
16:00

ご利用者が季節を感じながら、ステージイベントやご家族とのひと時を楽しんでいただく秋の恒例行事です。また、地域の皆さまにもご来場いただき、清風園を身近に感じていただく交わりの時でもあります。



10/18

日

第二清風園 (東京都町田市薬師台3-270-1)

ハロウィンフェスティバル2026

10:00-
16:00
(予定)

第二清風園では、毎年恒例の「ハロウィンフェスティバル」を開催します。来場者と職員が思い思いの仮装で楽しむイベントです。キッズコーナーやワークショップ、音楽・ダンスのステージをご用意。世代を超えた地域交流が広がる場となっています。



10/25

日

東海清風園 (静岡県御前崎市池新田4094)

賛育会フェスタ2026

10:30-
15:00

介護のしごと体験をはじめ、体験ブースや地域交流ステージ・マルシェなど、多彩な催しをご用意しています。ご家族や地域の皆さまに気軽に楽しんでいただけるイベントです。



11/14

土

たちばなホーム (東京都墨田区立花3-10-1)

たちばな感謝会

13:30-
15:00
(予定)

新施設への移転を控えるたちばなホームから、これまで支えてくださった地域の皆さまへ感謝を込めて、施設開放イベントを開催予定です。詳しい内容は決まり次第、施設のホームページでお知らせします。



11/15

日

マイホーム新川 (東京都中央区新川2-27-3)

オープンハウス

11:00-
13:00

地域の皆さまに「マイホーム新川」をより知っていただくため、オープンハウスを開催いたします。子どもたちへは介護職の魅力に触れる機会として、縁日など楽しい企画もご用意しています。



11/22

日

東京清風園 (東京都墨田区立花1-25-12)

帰ってきた!さんいくフェスタ

11:00-
15:00
(予定)

お休みしていた「さんいくフェスタ」が再開します。子どもたちのダンス、賛育会病院の「いのちの授業」のほか、新しくオープンする「和の病院・和の清風園」も紹介します。地域とつながり、楽しんでいただける催しを用意してお待ちしています。





皆さまのお支えに感謝いたします

2026年4月1日～6月30日までに下記の団体・個人の方々よりご寄付をいただきました。深く感謝申し上げます。
複数回ご寄付いただいた方も表記は一度とさせていただきます(敬称略 順不同)。

愛智 直行	加藤 輝勢子	武知 鱗次郎	堀 成美
青本 健作	金室 美津枝	田中 昇次	堀内 信雄
阿藤 光英	加納 孝代	谷口 博大	堀内 靖
新井 悟	樺澤 晃	崔 美樹	堀家 世司
有田 恵子	神谷 幸男	千葉 敦子	増田 喜代子
安藤 美智子	川上 るり子	土田 麻利佐	眞鍋 裕亮
五十嵐 康則	木口 圭子	寺田 正毅	箕輪 ひろみ
石川 かよ	久保田 進彦	戸部 卓治	宮澤 敏
石川 周子	栗田 和好	富井 幸男	村上 俊一
石田 悟	河野 通久	永田 恵子	森山 薫
井之上 芳雄	小林 利紀子	並木 信一	山崎 暁子
岩田 雅男	小牧 宏一	成澤 千枝子	横井 伸夫
薄井 佳代	小松 祐子	西田 千佐子	横地 みつ子
江口 洋一郎	小谷野 聖枝	西原 文隆	吉岡 伸泰
大島 俊秀	湖山 泰成	橋本 博子	若山 賢三
太田 裕子	澤田 直幸	林 恵	涌井 文子
大塚 衣織	志垣 義行	原 研治	株式会社星和
大橋 康司	東海林 吉良	原澤 ますみ	株式会社松村エンジニアリング販売
大嶺 さつき	末吉 孝幸	伴 成顕	有限会社ながしま茶園
大和田 由紀	鈴木 小百合	平野 昭宏	リメイクワン株式会社
小川 裕子	鈴木 茂	平野 毅	公益財団法人東京大学学生キリスト教青年会
奥津 亜季	鈴木 秀子	平野 俊如	PNJ事業協同組合
小栗 克之	瀬山 俊一	藤田 好夫	
柏木 文代	高野 義男	藤永 敬士	
片岡 愛	高橋 尚人	古谷 とき子	

匿名希望 70名



賛育会広報誌「San-iku通信」設置 ご協力施設・店舗様を募集しています

賛育会では、地域の皆さまに活動内容や取り組みを広く知っていただくため、広報誌「San-iku通信」を年4回発行しております。このたび、多くの方にお届けするため、本誌の設置にご協力いただける施設・店舗様を募集しております。地域貢献の一環として、来訪者への情報提供にもお役立ていただけますので、ご関心をお持ちいただけましたら、お気軽にお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

社会福祉法人賛育会 法人事務局 総務部
TEL:03-3622-7614
MAIL:houjin@san-ikukai.or.jp



賛育会チャリティーコンサート 開催時期変更のお知らせ

日頃よりチャリティーコンサートへの温かいご支援をありがとうございます。

例年10月に開催しておりますチャリティーコンサートは、諸事情により今年度は2027年3月6日(土)に開催いたします。

ご理解を賜りますようお願い申し上げます。皆さまとお会いできますことを心より楽しみにしております。



San-iku通信

社会福祉法人賛育会の
広報誌「さんいくつうしん」
San-iku通信 Vol.50 2026 夏号
編集:賛育会法人事務局 発行人:中村 基信 発行所:社会福祉法人 賛育会
賛育会後援会だより

さんいくつうしん
賛育会後援会だより 2026年8月号・第117号
編集・発行人:小堀 洋志
(20260825-6500)

社会福祉法人 賛育会
〒130-0012 東京都墨田区太平3-17-8
URL <https://www.san-ikukai.or.jp/>

お問い合わせ
TEL:03-3622-7614

